

小学校6年生から
高校1年生の女の子と
保護者のみなさまへ

わたしの体を守ること
とても大切なことだよ
未来のわたしと、大切なひとのために

**子宮頸がん予防を
始めませんか？**

釜石市 健康保険課 健康推進係

☎0193-22-0179

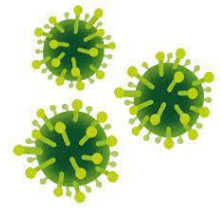
令和8年4月版



しきゅうけい 子宮頸がんはヒトパピローマウイルスが原因げんいんです

がんは、「おとな大人がなるもの」や「すタバコを吸うとなる」
そう思っていますか？

じつは、ウイルスにかんせん感染して起こる“がん”があります。
このウイルスは、じょせい女性の多くが、「いっしょう いちど一生に一度」はかんせん感染
するといわれています。感染してもほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、
一部の人には「がん」になって
しまうことがあります。



HPV

(ヒトパピローマウイルス)
しきゅうけい子宮頸がんのげんいん原因のほと
んどが HPV へのかんせん感染で
す。一度でもいちど性交渉のせいこうしょう経験
があればだれでもかんせん感染す
るおそれがあるといわれて
います。

しきゅうけい 何人くらいが子宮頸がんになるの？

日本では、毎年約1万1千人の女性が子宮頸がんになり、毎年約2,900人の女性が亡くなっています。

しきゅうけい子宮頸がんは20歳代から増え始めて、30歳代までにかんの治療で子宮をうし失う(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。



しきゅうけい くる ほうほう 子宮頸がんで苦しまないための2つの方法

ポイント① 今からできること

➡ HPV ワクチンの接種

小学校6年生から高校1年生の女の子は、HPV へのかんせん感染を防ぐためのよぼう予防
せっしゅ接種の対象です。将来のしきゅうけい子宮頸がん
の原因を防ぎます。

世界120か国以上で予防接種が行われ、カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは、8割以上の女の子が予防接種を受けています。



ポイント② 20歳になったらできること

➡ 子宮頸がん検診

20歳になると、しきゅうけい子宮頸がんけんしん検診を受けることができます。

HPV ワクチンの予防接種を受けていても、けんしんがん検診は必要です。検診でがんを早く見つけて治療するため、定期的にかん検診を受けることが大切です。

(国の指針:2年に1回)





ヒトパピローマウイルス

こうか

HPVワクチンの効果とリスク

HPVには、子宮頸がんを起こしやすい種類(型)があります。このウイルスへの感染を防ぐために、HPVワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)があります。

また、HPVワクチンには、がんになる手前の状態(前がん病変)が減り、がんそのものを予防する効果があるといわれています。

日本で使用している HPV ワクチン

現在、日本において公費で受けられるワクチンは、9価ワクチン(シルガード9)です。子宮頸がんを起こしやすい HPV16 型と 18 型に加え、ほかの 5 種類の HPV の感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の 80~90%を防ぎます。

HPV ワクチン接種のリスク

筋肉注射という方法でワクチンを接種します。

予防接種を受けた後に注射したところの痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。まれにですが、重い症状(※1)が起こることがあります。また、広い範囲の痛みや手足の動かしにくさ、不随意運動(※2)といった症状が報告されています。

重篤な症状(※3)として報告された人数は、ワクチンが原因か分からないものも含めて、ワクチンを受けた1万人あたり約2人(※4)です。

接種する年齢により、合計2回または3回受けますが、接種した時に気になる症状が現れたら、それ以降の接種をやめることができます。気になる症状がでた時は、まずはお医者さんや周りの大人に相談してください。(※5)

※1 重いアレルギー症状(呼吸困難やじんましんなど)や神経系の症状(手足の力が入りにくい、頭痛、嘔吐、意識の低下)

※2 動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと

※3 重篤な症状には、入院相当以上の症状などが含まれています

(報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも報告されることがあります)

※4 2025年度まで定期接種で用いていたサーバリックスとガーダシルは1万人あたり約5人

※5 HPVワクチン接種後に生じた症状の診察を行う協力医療機関を都道府県ごとに設置しています

岩手県の協力医療機関：【岩手医科大学附属病院 産婦人科 ☎019-613-7111】



ヒトパピローマウイルス

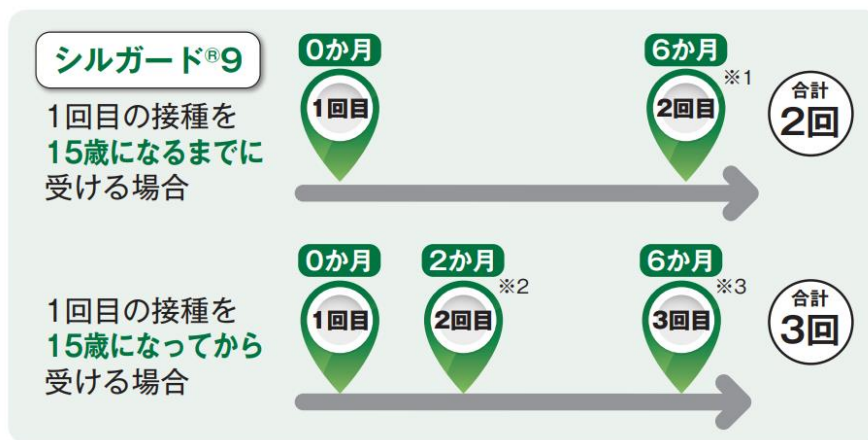
HPVワクチンの接種を希望する場合は？

小学校6年生から高校1年生相当の女の子は、HPV ワクチンを**公費(無料)**でうけることができます。ただし、対象期間を過ぎると自己負担になり、接種1回あたり約3万円、計3回接種すると約10万円かかることとなります。

接種する年齢により、接種の回数や間隔が異なりますが、1年以内に規定回数の接種を終えることが望ましいとされています。

また、ワクチン接種には保護者の同意が必要です。

【一般的な接種スケジュール】



※1: 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3: 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上(※2)、3回目は2回目から3か月以上(※3)あけます。

釜石市内の接種協力医療機関

釜石市で HPV ワクチンの予防接種をうけられる医療機関は次のとおりです。医療機関ごとに、予約方法が異なりますので、事前に電話で確認をお願いします。

堀耳鼻咽喉科眼科医院 ☎22-1005	平野内科医院 ☎22-1273
小笠原内科クリニック ☎25-2580	小泉医院 ☎23-5157
岩手県立釜石病院小児科外来 ☎25-2011(代)	神林医院 ☎23-6635

HPV ワクチンについて もっと詳しく知りたい

HPV ワクチンについて、「まだ早いけど接種どうしよう」「副反応が心配」など、不安なこと、知りたいこと、どんなことでも構いません。市健康保険課 健康推進係(☎22-0179)までご連絡ください。

また、厚生労働省や市のホームページもご覧ください。

厚生労働省ホームページ



釜石市ホームページ

